



投稿フォトギャラリー

撮影者 撮影日 撮影場所



晩秋の夕陽

撮影者 ミスエさん 撮影日 平成27年10月
撮影場所 幸崎漁港（幸崎能地四丁目）



ガラス玉に閉じ込められたイルミネーション

撮影者 山崎瑞歩さん 撮影日 平成27年11月
撮影場所 芸術文化センター ポポロ



三原の夜明け

撮影者 中原五三さん 撮影日 平成27年11月
撮影場所 円一町一丁目



錦秋

撮影者 藤原敏明さん 撮影日 平成27年11月
撮影場所 所賀羅加波神社（中之町五丁目）

投稿写真を募集

テーマ ～みはらの四季、みはら再発見、みはらの新たな観光スポット～

応募期限 8日(金)(必着)まで
応募資格 市内在住・在勤・在学の人
募集枚数 1人1枚
選考 総務広報課で選考
※投稿写真の著作権は市に帰属します。

※投稿写真は返却しません。
※広報誌で紹介できなかった写真は、市ホームページへ掲載することもあります。
申し込み 郵送またはEメールで、写真（L判サイズ）か写真データと、①撮影

者名②住所・電話番号③撮影日④撮影場所⑤作品名を総務広報課（〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848・67・6007 somukoho@city.mihara.hiroshima.jp）へ



▲昨年末に開催された合同研修会。多くの人が神楽を楽しみました

大和の神楽は、備後地方を中心に舞われている「備後神楽」の一種とされています。他の地域の神楽と比べて台詞や唄が多いのが特徴で、「衣装や舞台演出は地味だが、独特の台詞回しや舞いでどれだけ見

る人をひきつけられるか、演じ手の力量が問われる」と会長の近光崇行さんは話します。昭和40年代に郷土の遺産として保存の声が高まり、町内の各地域に保存会が発足しました。最盛期には9団体が活動していましたが、後継者不足などから、現在活動しているのは大具、大草、萩原の3団体のみ。平成5年に連合会を結成し、合同で技術の練磨に努めてきました。

元々は「本手」と呼ばれたプロの神楽師がいたほど、高度な技芸を誇る大和の神楽。その難しさも後継者不足の一因ですが、大草では神楽こども研究クラブをつくり、地域一体で後進の育成に励んでいます。「文化財の名前に恥じないよう、しっかりと伝統を受け継いでいきたい」と近光さん。若手を指導する声にも力が入ります。

独特の神楽を後世に引き継ぎたい



さまざまな分野でがんばる、キラリと光る人や活動を紹介します。



大和町連合神楽保存会
会長 近光崇行さん
（ちかみつたかゆき）